

各位

全3ページ
登録速報(2022-166)
2022年 7月20日
クミアイ化学工業株式会社
企画普及部 普及課

登録速報

下記の通り適用拡大登録となりましたので、ご連絡します。
適用拡大登録年月日：2022年7月20日

記

1. 農薬の登録番号及び名称

登録番号 第 22010 号

名称 ブイゲットプリンスリンバーL粒剤 (日本農薬(株)登録)

2. 変更の内容

農薬登録申請書第7項に以下を追加する。

使用量の追加：稲(箱育苗)/高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、
使用土壌約5L)1箱当り50～100g)

【追加】 (追加する使用量のみ抜粋)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フイロニルを含む農薬の総使用回数	フジニルを含む農薬の総使用回数	ワムピルを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病 紋枯病 ウカ類 ニカメイト イヌヅウムシ イトトイムシ コノメガ イトムシ 白葉枯病	高密度には種する場合は 1kg/10a (育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50～100g)	緑化期～ 移植当日	1回	本剤の 所定量を 育苗箱中 の苗の上 から均一 に散布す る。	1回	3回以内 (移植時 までの処 理は1回 以内、本 田での 散布は2 回以内)	2回以内 (移植時 までの処 理は1回 以内)
	もみ枯細菌病		移植3日前 ～移植当日					
	内穎褐変病		移植当日					

3. 当該変更に伴い、農薬登録申請書の記載事項に変更を生ずるときは、その旨及び内容
農薬登録申請書第8項に(5)をあらたに追加し、以降の番号を繰り下げ、(3)、(4)、(6)を
以下のとおり変更し、別紙のとおりとす。

【追加】

- (5)育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当りに乾糶として200から300g程度を高密度
には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、
育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。

【変更後】

- (3) 稲の葉が濡れている場合には、散布前に葉に付いている露を払い落としてから薬剤を散布する
こと。
- (4) 軟弱徒長苗、むれ苗又は苗の生育が不良な場合には、薬害を生じるおそれがあるので注意する
こと。
- (6) 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じるおそれがあるので、代かきはていねいに行い、移
植後に田面が露出しないよう注意すること。

【変更後】

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機で移植すること。
- (3) 稲の葉が濡れている場合には、散布前に葉に付いている露を払い落としてから薬剤を散布すること。
- (4) 軟弱徒長苗、むれ苗又は苗の生育が不良な場合には、薬害を生じるおそれがあるので注意すること。
- (5) 育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約 5L) 1 箱当りに乾粒として 200 から 300g 程度を高密度には種する場合は、10a 当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が 1kg/10a までとなるよう、育苗箱 1 箱当りの薬量を 50 から 100g までの範囲で調整すること。
- (6) 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じるおそれがあるので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出しないよう注意すること。
- (7) きく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布すること。
- (8) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

以上